

さわやかな風味の中生カンキツ新品種 「はるひ」

ヒュウガナツは、独特の爽やかな風味をもつ晩生のカンキツです。宮崎、高知、静岡などで栽培が行われ、春から初夏にかけて出荷されるため、「小夏みかん」、「ニューサマーオレンジ」とも呼ばれ人気があります。(独)農研機構果樹研究所では、ヒュウガナツより早熟で甘味があり、ヒュウガナツ同様に爽やかな食味をもつ新品種「はるひ」を育成しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 1991年に果樹試験場興津支場(現 農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点)において、食味が優れる「カンキツ興津46号」(スイートスプリング×トロビタオレンジ)に香りの爽やかな「阿波オレンジ」(ヒュウガナツ×トロビタオレンジ)を交雑して得られた実生から選抜しました。春の日の光のように優しい果皮色、甘く爽やかな食味のイメージ、そしてヒュウガナツより早熟で初春よりおいしく食べられる「ハルヒュウガナツ」の語感から「はるひ」と命名されました。
2. 「はるひ」は、1月中旬から2月にかけて成熟する品種で、5月に成熟するヒュウガナツに比べて早熟です。成熟期の果汁の糖度は13%程度と高く、酸含量も1.0%程度までさがり、食味はヒュウガナツに似て爽やかで良好です。
3. 果実重は平均150g程度、果形は扁球形です。果面は滑らかで、果皮は黄橙色に着色します。果皮厚は3mm程度とやや薄く、柔らかいので剥皮が比較的容易です。果肉は橙色で柔軟多汁です(写真)。
4. 種子数は平均14個程度とやや多いですが、周囲のカンキツ栽培状況や授粉樹の選択により無核果生産が可能であると考えられます。また、加温施設栽培による年内収穫も可能です。
5. 樹姿は開張性で、樹勢は中庸です。病害抵抗性はいよ病とそうか病には強く、カンキツトリステザウィルスによるステムピッチングの発生は中程度です。



写真 ヒュウガナツ(左) 「はるひ」(右)

☆ 活用面での留意点

1. ほとんどのカンキツ栽培地帯で栽培可能ですが、冬季温暖な地帯での栽培が望ましいです。
2. 隔年結果の傾向があり、着果過多になると果実が小玉になるほか、樹が衰弱し、著しい場合は樹が枯れ込むこともあるので、適正な着果負担に努める必要があります。
3. 詳細については、(独) 農研機構果樹研究所カンキツ研究興津拠点(電話：054-369-7100)にお問合せください。

(果樹研究所カンキツ研究領域・研究員 濱田宏子)